

令和元年(平成31年)度 佐賀県立唐津西高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>創立112年の歴史と伝統を継承し、「21世紀を逞しく生き抜き、国際社会や我が国の発展に寄与するとともに、郷土と自然を愛し、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成」を目標とする。そのため、「知・徳・体をバランスよく向上させることにより、高い人格の形成と、これからの社会の変化に対応できる資質の育成」を目指す。</p> <p>教育方針: First Choice「選ばれる西高を目指して」 教育姿勢: 師弟同行(共育)「ともに成長し合う」のもと、「地域に貢献できる」「朝(あした)に希望、夕べに感謝」できる人間性豊かな志のある生徒を育成する。</p>	<p>①これからの時代を担う志のある人材を育成するため、生徒一人ひとりの基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図るとともに、進路希望達成に向けて、夢と目標の達成に邁進するよう、愛情と使命感を持って行う。特に、進学実績の向上を図り、地域に信頼され選ばれる学校づくりを推進する。</p> <p>②「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、地域の人的・物的資源を活用し、教職員とチームを組んで協働的な活動を行う。保護者や地域の力を教員指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かす。</p> <p>③教職員は生徒・保護者・地域社会から信頼を得るために、常に危機管理意識を持って、日々の自己研鑽に努める。</p>

3 目標・評価

①進学実績の向上を図り、地域に信頼され選ばれる学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	教科指導の充実	授業における教師の指導力を向上させる。 授業における生徒の理解度を向上させる。 授業アンケートの理解度の項目において「理解できている」と「だいたい理解できている」の合計を80パーセント以上とする。 効果的かつ効率的なICT活用能力の向上を図る。	教師の授業相互見学により、指導方法の工夫と開発に取り組み。 予備校や他校での研修会に参加し、授業の質の向上を目指す。 授業アンケートを実施し、生徒の理解度や満足度を高める。 模試分析を行うとともに、電子黒板、学習用PC、デジタル教材等を有効に活用した授業方法の研究と授業実践を行う。
	○進路指導	進学意識の向上 進路希望の達成と進学実績の向上	生徒自らが考え、納得のいく進路を選択させる。 大学進学希望者の割合をすべての学年で70%以上にする。 3年生の進路希望実現100%を目指す。 国立大合格20名以上、福岡大、西南学院大、中村学園大の3大学合計50名以上の合格を目指す。	面談、進路講演会、進路のしおり、進路情報誌を通して、進路意識を高める。 進路希望調査を各学期に行い、個々に応じた丁寧な進路指導を図る。 Classiやスタディサプリを活用して、家庭学習の習慣化を図る。 教科指導、小論文指導などの研修、模試の成績分析、進路検討会の実施等によって、教師の指導力向上と、きめ細かい進路指導を図る。 進路情報を定期的に生徒・保護者に発信する(進路だより発行)。 推薦・AO入試に向け早期に情報を与え、対策を行う。
	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用による、学習効果・学習効率の向上	ICTの利活用を通して、生徒の情報活用能力を高める。	生徒の学習活動に、電子黒板や学習用PC等を活用し、興味・関心を喚起し、主体的な学びにつなげていく。

②志のある人材を育成するため、資質・能力や自他を大切にできる感情を身に付けるよう、愛情と使命感を持って行う。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	夢や目標の実現に向けて努力する教育活動の推進	生徒の興味・関心を引き出す教育の実践。 総合的な探究の時間の活用	様々なテーマで講演会を実施。 部活動の充実。 留学、ボランティア、体験活動などの積極的な紹介 行事、講演会後の感想記入や振り返りの実践とポートフォリオの活用
	●心の教育	マナー、モラル、規範意識の高揚	服装髪型などの校則を遵守する生徒の育成。 「明るい挨拶、気持ちの良い挨拶」ができる生徒の育成。 校歌を大きな声で歌う生徒の育成。 その場に応じた礼儀正しい言葉遣いができる生徒の育成。 SNS等を適切に使用することができる生徒の育成。	年6回の全体指導のみならず、日頃から声掛け指導を行う。 朝の登校指導や校内で生徒達とすれ違う際、先に挨拶するよう呼びかける。 部活動、生徒会と協力して、大きな声で歌う雰囲気作りをする。 職員室等に入室する際など、管理棟での言動については特に重点的に指導する。 情報モラル講演会を年2回実施し、注意喚起する。
		命の大切さ	命の大切さについて常に考える姿勢や態度を養うとともに、広く人権意識の高揚に努める。	命の大切さを学ぶことを目的とした毎年開催の「ハナコフェア」をはじめとして、テーマに関連した講演会等を実施する。 感想を書きとめることで講演を振り返る。
	●いじめの問題への対応	豊かな人間性の育成	いじめ0を目指す。 自己理解を深めることで、他者理解ができる生徒の育成。	学期1回のアンケート、個人面談、三者面談を利用し、いじめの芽を早期発見する。 自己肯定感を育むために、小さな事であっても大きく褒める。
	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立	遅刻者0を目指す。 長期欠席者0を目指す。	毎朝登校指導をしながら声を掛け、気になる生徒については、早目に担任との情報交換を行う。 毎日の欠席者を把握し、担任との情報交換を密に行う。
		心と体の自己管理	各科健康診断後の受診率を上げる (歯科は4割、視力・眼科と耳鼻科は6割を目指す) SEI-Netを利用した健康状況調査の導入を通して、生徒の心身の健康状態の把握に努める。 SCの活用	学校医との連絡を密にして、受診勧告及び啓発活動を充実させる 各診療科を受診しやすいよう、部活動顧問に未受診者の一覧表を渡し、配慮を依頼する。 生徒の保健室利用状況等について、毎月の学年別報告、週1回のクラス別報告を行う。 各学年と連携し、心の不安定な生徒に対して、SCと効果的な面談ができるよう体制を整え、支援する。
	○部活動	部活動の活性化	全校生徒の部活動加入率を100%に近づける。 部活動を通して、学校を活性化させる。	部編成を2回行うとともに、年間を通して未加入者に入部を勧める。 部活動の活動実績を生徒会新聞等で紹介するとともに、部活動生徒が率先して学校をリードする雰囲気を作る。 学級減にともなう、部活動の再編を行う。
	○図書館利用	図書館の利用と読書活動の推進	生徒に親しまれ、職員の役に立つ図書館にする。 生徒による図書館活動を充実させる。 生徒の読書の習慣化を図る。	生徒の希望図書購入に努め、各種企画を充実させる。 図書委員で学校に関する新聞記事のスクラップ作りに取り組む。 開館時間を早め、「朝の読書」用の本の貸し出しに積極的に対応する。 朝の読書を毎日実施することやクラス読書会を実施する。 図書館だよりを隔月発行する。(年6回以上)
	○交通安全教育	交通安全教育の促進	交通事故0を目指す。	交通安全についての講話を実施する。 駐輪マナーの指導を徹底することで、交通マナーアップにつなげる。
	○保健指導	環境美化の推進	生徒の環境美化への意識を高める。 安全かつ衛生的な環境を維持する。	保健委員、環境美化委員と連携し、水拭き等の掃除。

③地域社会と連携し、開かれた明るい学校、信頼される学校をつくる。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取り組みを推進するとともに、教職員の時間外勤務勤務の削減を推進する。 休暇取得週間や学校閉庁日を設定し、全教職員に年次休暇取得目標を最低10日以上とする。 全ての部活動において、年間104日以上の休養日を目指す。	会議の効率化、事務の合理化、行事の精選を年間を通して検討し、実行する。 学校評価及び業務の「見える化」による校務分掌を見直し再編を行う。 校務サーバーの整理。 週1日の定時退勤推進日(基本的には月曜日)の推奨。 部活動において、週休1日祝祭日における休養日の推進を図る。
	○学校経営方針	教育目標、経営ビジョン、重点目標の周知	本年度の重点目標を知っている保護者の割合を70%以上にする。	振興会総会、保護者会への参加率を向上させる。振興会総会や三者面談、学校ホームページ等を通して、機会あるごとに周知する。
	○開かれた学校づくり	体験入学及び学校説明会の充実 学校行事への保護者の出席率の向上 学校開放日における授業参観の実施	体験入学において、昨年度の参加者数を上回る。 (平成30年度:生徒323名参加) 振興会総会の出席率を70%以上にする。(平成30年度:66.2%) 保護者の授業参観数を50名以上にする。	HPを通して、本校生徒の活動や本校の特長を外部に発信する。HPの更新を適切に行い、内容の充実を図る。 保護者会の開催については、期日を含め、保護者が参加しやすい計画を立て、内容の充実を図る。 学校開放日を魅力ある内容にするとともに、開催についての周知に努める。
	○学年経営	1学年の目標達成	Change(変化) & Challenge(挑戦) 生活面: あたり前のことをあたり前に行えるように 「基本的な生活習慣を身に付ける」 「規範意識を身に付ける」 「コミュニケーション力をつける」 学習面: やるべき事をやるべき時に 「学習習慣を身に付ける」 「基礎・基本の確実な定着」 「授業や校外行事への積極的参加」	基本的な生活習慣の確立(欠席・遅刻を少なくする)。 コミュニケーション力の向上(相手の気持ちを推し量る、挨拶、言葉づかい)。 主体的に行動する生徒の育成(自分で考え、行動する)。 部活動の積極的参加の奨励。 基礎学力の養成を行う(学び直しを含めて)。 学習習慣を身に付けさせ、家庭学習時間の確保をさせる。 進路目標の明確化(文理選択、早期からの国立大学進学希望者の育成)。 テストに向けての取り組み(事前・事後)。 質の高い振り返りをさせる(ポートフォリオを活用)。 授業や校外行事への積極的に参加させる。 資格取得の推奨。
		2学年の目標達成	時間・空間・仲間(さんま)を大切にし、進路開拓につなげる。 「時間を大切に」: スケジュール管理能力を高め、目標を達成する。 「空間を大切に」: 学びの環境・学ぶ姿勢を整え、力を十分に引き出す。 「仲間を大切に」: 自己理解・他者理解を深め、共に伸ばし合う。 「進路を拓く」: 自身のキャリア、学びたいことを明確にしていく。	手帳やカレンダーの活用を通し、先を見据えた行動ができる環境を整える。 課題一覧の作成や手帳の管理を通し、家庭時間学習の定着を図る。 集会・講演会等に手帳と筆記用具の持参を促し、学び取る姿勢を身に付けさせる。 掃除の徹底・気持ちの良い言葉遣いなどを通し、学ぶ環境を整える。 月1回のKPT法を実施・ポートフォリオの作成を通し、振り返りを改善につなげる環境を作る。 少なくとも1校のオープンキャンパスへの自主参加を励行し、進路開拓につなげる。 研修会への参加や情報の収集を行い、大学入学共通テスト・外部試験成績提出への対策を図る。
		3学年の目標達成	学習を中心とした生活習慣を継続する。下級生の模範となる。 遅刻、欠席をしない。きちんとした服装・髪型をする。 挨拶、言葉遣い、掃除等を元気にする。 受験学力の更なる定着をはかる。 家庭学習4時間を確保するとともに工夫する。受験に対応できる学力をつける。 授業に集中する(学ぶ姿勢を維持する、寝ない)。落ち着いた学習環境をつくる。 出願計画の見直しを立て取り組む。 進路目標を達成する。 将来の夢・目標(高き理想)の達成に向け、最大限の取り組みをする。	スケジュール帳を毎日回収チェックし、よりよい生活習慣、学習習慣を確立、継続させるために活用する。 課題計画表を事前に提示し、見直しを立てて学習をさせる。 学習用PCに健康状況を毎日入力したり(SEI-Net)、定期的に学習時間を入力する(Classi)ことで、自分の健康や学習管理をさせる。さらには、受験学力の定着や、進路決定に向けた進路学習にも活用する。 進学ガイダンスや大学オープンキャンパスにも積極的に参加させ、進路目標を達成するための後押しをする。 生徒が夢と目標の達成に邁進するよう、職員は生徒との面談を頻繁するとともに、学年団と進路指導部との連携を密にしながら、愛情と使命感を持ってかわっていく。
○教職員の資質向上	生徒の生きる力を育み、進路希望を実現させる力量を目指した自己研鑽	各教師が設定した自己目標を実現する。 センター試験及び国立大、西南学院大、福岡大、中村学園大等の入試問題について研究する。 体罰の禁止について全職員が理解し、体罰のない指導を行う。 ICT教育機器を活用した教育を実践するとともに、校務処理能力を高める。	教科や校務分掌等において、前年度踏襲にならないよう、効率化や有効性の観点から工夫を凝らし、目標の達成を目指す。 職員会議等の場で、懲戒・体罰に関する周知を行い、職員の意識向上を図る。 ICT利活用に係る情報の共有を適宜図る。	